

平成18年度「教育研究支援プロジェクト経費」成果報告書

プロジェクトチームの代表者 部・講座等名 高度情報研究教育センター

氏 名 菊 地 章

<p>プロジェクトの名称</p>	<p>遠隔授業観察システムを活用した 授業実践に関する研究</p>	<p>配分 予算額</p>	<p>952,000円</p>
<p>プロジェクトの概要</p>	<p>平成17年3月に導入された遠隔授業観察システムは、附属学校との教育研究の円滑な交流を目的として設備され、これまで継続的な運営を行ってきた。</p> <p>鳴門教育大学附属学校園と大学高島地区は約20Kmの距離が離れており、教育実習等での学生・教員の移動を考慮するとネットワークを利用して映像・音声情報を遠隔地で共有することは時間的な節約を図るとともに記録に残る授業を観察可能となり、教育実習等での有効利用が図れる。これを目的として、機器構成における主たるコントロールを高島地区の講義棟B308講義室に設置し、また相手側として附属小学校の多目的教室棟1階グラープ学習室ならびに附属中学校3階第一メディアルームに固定型の対応機器を設置し、さらには附属養護学校と附属幼稚園には移動型の機器を設置し、附属小学校のカメラ操作は講義棟B308講義室から操作することができ、また附属小学校または附属中学校の映像とB308講義室の映像を双方向にしたり一方向にしたりすることができ、</p> <p>昨年度は基本的な遠隔授業観察システムの研究を行ってきたが、本年度は、このシステムを有効に活用するために最終まとめとして再度教育研究プロジェクトを構成し、教育実習での有効性、大学における授業利用、附属学校園における講義形式ならびに実習形式の授業利用を</p>		
<p>結果の概要</p>	<p>従来は附属小学校ならびに附属中学校の固定カメラを利用していましたが、本年度はこれら講義形式の授業観察に加えてネットワークに接続して簡単に利用できる移動型カメラを利用しての遠隔での授業観察を行った。これらの実践結果を以下に記載する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成18年7月10日 9:40-10:25 長島真人先生（附属小学校）、音楽、大学院生講義と併用（7月8日の授業からの継続授業）</li> <li>・平成18年度11月1日 16:20-17:00 附属中学校とB308教室を結んだプロジェクトの今後の打合せ（遠隔授業観察システム使用）</li> <li>・平成18年12月22日午後 固定カメラでなく移動型カメラによる附属中学校と高島地区の新方式のテストを実施（移動型カメラは互いに1台のみではあるが、良好な結果を得られることを確認）</li> <li>・平成18年12月22日 10:40-12:10 鳥井葉子先生、初等中等教科教育実践Ⅱ（家庭）、大学被服構成実習室（C301）での学生の模擬授業、題材：「布のちがいを調べよう!!—ポリエステル&amp;綿—」、元木康代先生は附属中学校家庭科準備室から観察し学生への助言を実施（移動型カメラによる実習室での利用）</li> </ul> <p>また、研究成果報告書として、「平成18年度教育研究支援プロジェクト報告書：遠隔授業観察システムを活用した授業実践に関する研究」を作成した。内容は下記の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 遠隔授業観察システムプロジェクトについて： 菊地章</li> <li>(2) 遠隔授業観察システムの活用から派生する音楽科教師教育の課題—授業実践力の育成をめざしたT.T.による模擬授業の可能性と評価スタンダードの構想—： 長島真人</li> <li>(3) 学習支援システムによるドリル教材の利用から見た遠隔教育の要件と課題： 川上綾子、島宗理、藤原伸彦、葛西真記子</li> <li>(4) 可搬性を考慮した一般教室型遠隔授業観察システムの構築と実践： 林秀彦、鳥井葉子、曾根直人、菊地章</li> </ul> <p>遠隔授業観察システムプロジェクトは、昨年度の研究主体から今年度の実践事例の積み重ねに発展した。この成果を足場として、今後は学内教員の継続的な利用を期待する。</p>		

(注) 1. 箇条書き等により簡明に記入すること。  
 2. 概要については、800字程度にまとめること。  
 3. 研究協力者として院生等が参加している場合、院生等の報告書があれば添付すること。  
 4. なるべくパソコン等で作成願います。